

東京都 スポーツ推進委員だより

第135号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2025年 3月 31日

編集：情報委員会

事業方針

令和7年度事業方針・事業計画

【方針】

昨年の2024パリオリンピック・パラリンピックは大観衆の中で開催され、日本選手の大活躍もあって大いに盛り上がりました。スポーツの持つ力を改めて感じた方も多かったのではないのでしょうか。

今年は2025世界陸上選手権大会や2025デフリンピックが東京で開催されます。コロナ禍で開催された2020東京オリンピック・パラリンピックと異なり、会場でトップアスリートの活躍を見ることができ、推しの選手やチームを大声で応援することができます。こうした機会を通してスポーツに関心や興味を持つ人が増えていくことが期待されます。

今年1月に公表された「都民のスポーツ活動等に関する調査結果（速報）」によると、都民のスポーツ実施率は63.3%（前回比マイナス3.0ポイント）、障がい者のスポーツ実施率は46.6%（前回比プラス0.3ポイント）という結果でした。いずれも高い水準にあります。目標達成に向けて着実に活動していくことが求められます。一方、デフリンピックの認知度は39.0%で前回比プラス24.2ポイントと急上昇しました。デフリンピック開催までにさらに認知度を高め、聞こえない・聞こえにくいことへの理解とそうした人達のスポーツ参加につながるよう進めていく必要があります。

学校部活動の地域連携・地域移行も各地で本格的な取り組みが進められています。私たちスポーツ推進委員は指導者としての役割が期待されていますが、スポーツ推進委員が指導者として積極的に関わっている例はまだ聞こえてきません。困難な課題ではありますが、後戻りや放置はできない状況です。引き続き関心を持って臨んでいく必要があります。

令和7年度は、こうした社会背景を踏まえ、東京都と連携した活動を展開していくとともに、スポーツ推進委員の情報格差の縮減に向け、東京都との共催で行う研修会について、オンライン参加もできるように取り組んでまいります。

皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【会議】

- 社員総会
 - 第一回 5月24日（土） 文京区民センター
 - 第二回 3月18日（水） 会場未定
- 理事会
 - 4月9日、5月14日、6月11日、7月9日、9月10日、10月8日、11月5日、12月10日、1月14日、2月4日、3月11日
- 各委員会 随時開催
- 会長会 6月15日（日） 文京区民センター
- 監事監査 5月中
- 表彰審査会
 - 4月20日 関東大会功績者及び都スポ協功労者
 - 5月中 全国大会功労者等
- その他
 - 特別委員会は必要に応じ随時開催

【事業】

- 東京都共催事業（予定）
 - (1) 広域地区別研修会
 - ・広域地区別研修会開催地区（会場は予定）
 - ・ブロック責任者会議（令和7年度 担当地区）

地区	担当地区	期 日	会 場
1B	千代田区	7月6日 （日）	千代田区役所
2B	荒川区	9月27日 （土）	荒川総合スポーツセンター
3B	品川区	8月30日 （土）	スクエア荏原
4B	中野区	10月4日 （土）	中野区役所
5B	墨田区	8月30日 （土）	すみだリバーサイドホール
6B	稲城市	9月6日 （土）	稲城市中央公園総合体育館
7B	あきる野市	8月23日 （土）	秋川体育館・中央公民館

地区	担当地区	期 日	会 場
8B	東大和市	8 月 30 日 (土)	東大和市中心公民館
9B	国分寺市	9 月 13 日 (土)	本多公民館
10B	東村山市	9 月 20 日 (土)	TAC 東村山スポーツセンター
11B	大島町・利島村	11 月 28 日 (金) or 12 月 5 日 (金)	ニユーピア竹芝サウスタワー

・令和 8 年度担当地区への事前説明会：7 月 16 日(水)

(2) 課題別研修会

研修会名	期日	会場
課題別研修会 (内容は調整中)	12 月予定	調整中

(3) 地域スポーツ支援研修会 (Zoom テスト配信予定)

研 修 会 名	期 日	会 場
地域スポーツ支援 研修会(区部)	1 月 17 日 (土)	港区男女参画センター『リーブラ』
地域スポーツ支援 研修会(市町村部)	2 月 11 日 (水・祝)	三鷹産業プラザ
地域スポーツ支援 研修会(全域)	2 月 21 日 (土)	文京区民センター

(4) 初級パラスポーツ指導員養成講習会

日程： 7 月～8 月

会場： 調整中

(5) 中級パラスポーツ指導員養成講習会

日程： 10 月～2 月

会場： 調整中

2. 自主事業

(1) 研修事業

研 修 会 名	期 日	会 場
基礎研修会	5 月 17 日 (土)	文京区民センター
ニュースポーツ研修会	6 月 7 日 (土)	青梅市住友金属鋁山アリーナ
実務研修会	10 月予定	調整中
交流ボッチャ研修会	12 月 7 日 (日)	世田谷区 希望丘地域体育館

(2) 東京都スポーツ推進委員だより及び

ホームページの配信

(3) 調査研究・資料収集

(4) 顕彰(スポーツ推進委員功労者の表彰)

① (一社)東京都スポーツ推進委員協議会の表彰

(功労者、感謝状、特別表彰)

② (公社)全国スポーツ推進委員連合の被表彰候補者の推薦(団体と個人)

③ 関東スポーツ推進委員協議会の被表彰候補者の推薦

3. 派遣事業

(1) 関東スポーツ推進委員研究大会

6 月 27 日(金)～28 日(土) 山梨県甲府市 他

(2) 第 66 回全国スポーツ推進委員研究協議会

11 月 13 日(木)～14 日(金) 長野県長野市 他

(3) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2026

令和 8 年 2 月初旬 栃木県宇都宮市

(4) スポーツ推進委員リーダー養成講習会

令和 8 年 3 月初旬

【協力事業】

1. 東京都(予定)

① 東京都生涯スポーツ担当者研修会

② パラスポーツセミナー

2. 東京都パラスポーツトレーニングセンター 委託事業 年 2 回

3. (公社)全国スポーツ推進委員連合

(1) 機関誌「みんなのスポーツ」の購読促進

(2) 「スポーツ推進委員手帳」

「スポーツ推進委員ハンドブック」の普及推進

(3) シンボルマークのグッズの普及推進

(ジャンパー・ポロシャツ・バッジ・ネクタイ・
タイピン・ピンブローチなど)

(4) 賛助会員としての協力促進

(5) その他関連事項等

【その他】

1. (公社)全国スポーツ推進委員連合総会

6 月 13 日(金)

2. (公社)全国スポーツ推進委員連合理事会

5 月 16 日(金)、3 月 7 日(土)

3. 関東スポーツ推進委員協議会理事会

6 月 27 日(金)、2 月予定

社員総会

令和6年度 第2回社員総会

令和7年3月12日（水）18時30分、文京区民センターにて、令和6年度第2回社員総会が実施されました。

まず新島会長から「今年は、東京都による次期「東京都スポーツ推進総合計画」の策定・公開が予定されており、非常に楽しみです。また、世界陸上やデフリンピックが開催され、多くの方がボランティアとして参加されることと思います。スポーツの盛り上がりを感じられる、楽しみな一年になりそうです。」との挨拶がありました。

次に、定足数の確認がなされ（出席41名、委任状10名 合計51名）、続いて議長の選任、議事録署名人が確認されました。



同総会における議事は、以下の通りです。

（1）報告事項

1）理事会報告（荒川委員長）

令和6年度に実施された理事会（8月以外の毎月）の報告がありました。詳細は配布議事録などを参照。

2）企画総務委員会（荒川委員長）

- ・配布議事録などを参照（第1～6回）
- ・会長会、交流ポッチャ研修会

3）研修委員会（三枝委員長）

- ・配布議事録などを参照（第1～7回）
- ・ニュースポーツ研修会、課題別研修会、実務研修会

4）情報委員会（長谷川委員長）

- ・配布議事録などを参照（第1～6回）
- ・都スポだより133号、134号

5）リーダー委員会（濱谷委員長）

- ・配布議事録などを参照（第1～10回）
- ・第5ブロック初任者講習会、初任者講習会

6）東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業（岡田副会長）

- ・ラダーゲッター体験会

7）東京都広域地区別研修会 第1B～第11B

8）地域スポーツ支援研修会について（長谷川委員長）

- ・配布議事録などを参照

（区部：1月18日（土）／市町村部：2月1日（土）
／全域：2月15日（土））

9）生涯スポーツ・体力づくり全国会議2025（新島会長）

- ・配布報告書などを参照

10）関東スポーツ推進委員協議会第2回理事会（新島会長）

- ・配布報告書などを参照

（2）確認事項

1）東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業（岡田副会長）

- ・配布報告書などを参照

（3）協議事項

1）令和7年度事業計画（案）（荒川委員長）

- ・配布資料参照（賛成多数で令和7年度における事業計画は承認された）

2）令和7年度予算（案）（中村財務）

- ・配布資料参照（賛成多数で令和5年度における予算は承認された）

3）公益通報窓口の周知

- ・東京都からの指摘により、都スポ協 HP のトップページにて掲載済。

4）その他

- ・デフリンピックを盛り上げるための配布したピンク色のカードを説明。（荒川委員長）



最後に、松田副会長によって閉会の辞が述べられ、20時20分に終了しました。



記事 長谷川 恵二 情報委員会（昭島市）

写真 加来 剛 情報委員会（豊島区）

研 修 会



生涯スポーツ・体力づくり全国会議

令和7年2月7日（金）、石川県金沢市の石川県立音楽堂にて「生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2025」が開催された。本会議は、スポーツに関わる多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、第3期スポーツ基本計画を踏まえた今後のスポーツ推進方策について検討することを目的としている。

◇全体テーマ：「スポーツの価値」の更なる向上を目指して

◆全体会（トークセッション）

午前の全体会では「国民のスポーツを通じたライフパフォーマンスの向上に向けて」をテーマにトークセッションが行われた。ファシリテーターを務めたのは、ハイパフォーマンススポーツセンター長である久木留 毅氏。パネリストにはスポーツ庁長官の室伏広治氏や、東京2020五輪フェンシング金メダリストの宇山賢氏、パラスポーツ普及に尽力するNPO法人STANDの伊藤数子氏、女子栄養大学の津下一代特任教授らが登壇した。

室伏長官は「感動を生むスポーツ界の実現」を掲げ、トレーニングの科学的理解の重要性を説いた。また、セルフチェックの必要性や、ハイパフォーマンスの知見を広く国民のスポーツ実施に活かすことの大切さについて言及した。

久木留氏は「ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ」と題し、スポーツを支える総合的なコンディショニングの重要性を強調。宇山氏は、オリンピックで得た経験を社会に還元する活動を紹介し、フェンシングを安全に体験できる「スマートフェンシング」の推進を語った。

伊藤氏は、パラスポーツが社会の課題解決の手段となることを述べ、「少しずつ社会が変わっていくことが大切」と語った。津下氏は、健康づくりの観点からセルフモニタリングの重要性を説き、記録することの意義を強調した。

◆分科会（第3分科会）：「災害とスポーツ／フェーズゼロ」



午後の第3分科会では「減災のためにスポーツ・運動指導者ができることと災害時支援のための基礎知識」をテーマに、福島大学の天野和彦氏がコーディネーターを務め、災害支援に携わる各分野の専門家が登壇した。

宮城県レクリエーション協会の山内直子氏は、東日本大震災での被災地支援活動を紹介し、レクリエーションが人々の心を癒やす役割を果たしたことを報告。七尾市レクリエーション協会の宮西好子氏は、能登半島地震被災者へのスポーツ・レクリエーション支援について触れ、避難所での体操の要望が高まっていたことを伝えた。

また、特定非営利活動法人イーはとーぶスポーツクラブの村里洋子氏は、震災復興のためのスポーツ支援活動の実例を発表。「人を笑顔にすることが私の原動力」と述べ、支援活動の継続の重要性を強調した。さらに、日本ウォーキング協会の川野浩二氏は、防災ウォークの活動を紹介し、「逃げ切る力を養うことが大切」と語った。

◆研修のまとめと感想

・スポーツと災害支援の関わりについて学ぶ貴重な機会となった。

・被災地でのスポーツ・レクリエーションの導入には、まずは傾聴から始めることが重要。

・避難所における支援活動では、避難生活者の個性やプライドを尊重することが求められる。

・スポーツの価値をより広く社会に伝えていくためには、専門的な知見を活かしながら、実践的な活動を展開していくことが不可欠である。

今回の会議を通じて、スポーツの価値を見直すとともに、スポーツが持つ可能性を社会に還元することの重要性を改めて実感した。



記事・写真 新島 二三彦 会長（羽村市）

研 修 会



地域スポーツ支援研修会（区部・市町村部）

令和7年1月18日（土）14時20分より、東京都地域スポーツ支援研修会（区部）が港区立男女平等参画センター「リーブラ」にて開催されました。講師として、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団 デフリンピック準備運営本部 総務部 企画・広報グループ 課長 石井正俊様をお招きし、「東京2025デフリンピック」についてご講演いただきました。参加者は117名でした。

デフリンピックは、IOC（国際オリンピック委員会）公認の国際大会であり、オリンピック、パラリンピック、スペシャルオリンピックスと並ぶ重要なスポーツイベントです。パラリンピックが視覚障害・知的障害・肢体障害のある選手を対象としているのに対し、デフリンピックは聴覚障害のある選手が参加する大会です。

東京2025デフリンピックは、2025年11月15日から26日までの12日間開催され、約6,000人の選手団が参加する予定です。全21競技が実施され、70～80か国・地域が参加します。参加資格は、補聴器などを外した裸耳（はだみみ）状態での聴力損失が55デシベルを超える選手であり、各国のろうスポーツ協会に登録していることが条件となっています。

デフリンピックの競技ルールは基本的にオリンピックと同様ですが、試合情報は視覚的に提供され、選手が平等に「聞こえない」環境で競技できるよう配慮されています。聴覚障害は外見からは分かりにくいので、競技においてはアイコンタクトやジェスチャーを活用するなどの工夫が求められます。

東京2025デフリンピックは、共生社会の実現を目指し、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用しながら、コストを抑えたコンパクトな大会として計画されています。大会のシンボルとなるエンブレムは、筑波技術大学の学生が制作したデザイン案を基に、都内の中高生による投票で決定されました。「輪」をテーマに、人々のつながりを表現し、デフコミュニティの象徴である「手」と桜の花卉を取り入れたデザインとなっています。

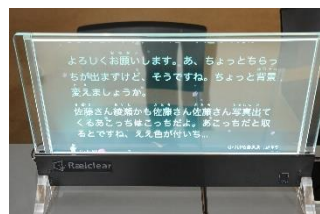
競技会場には既存の体育施設を活用し、地域住民がスポーツに親しむ機会を提供することを目指しています。また、「国立オリンピック記念青少年総合センター」をデフリンピックスクエアとして活用し、選手村機能を持ちながら一般の人々と交流できる場とする計画です。

大会の運営資金については、スポンサー企業の制限を設けず、小額からでも寄附・協賛できる仕組みを採用し、アスリート支援に活用されます。広報活動では、SNSや企業の協力を活用し、参加者や支援者の輪を広げる取

り組みが進められています。

今回の研修会に加え、令和7年2月1日（土）14時20分からくにたち市民芸術小ホールにて開催された市町村部研修会（参加者138名）でも、同様のテーマで講演が行われました。私も両方の研修に参加しましたが、どちらの会場でも講師の熱い語り口調と丁寧な説明により、非常に有意義な講演となりました。

今回の研修を通じて、東京2025デフリンピックの意義や運営チームの熱意を強く感じることができました。デフリンピックが目指す共生社会の実現は、スポーツ推進委員の理念とも重なる部分が多く、私たちも積極的に応援し、大会の成功を願う気持ちが高まりました。



記事 柴田 恭伸 情報委員会（狛江市）
写真 中根 宏行 情報委員会（江戸川区）

研修会



地域スポーツ支援研修会（全域）

令和7年2月15日（土）14時10分より、東京都地域スポーツ支援研修会（全域）が文京区民センターにて開催された。講師として、一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟 理事長の石川一則氏と、2024年パリパラリンピックで5位入賞を果たした竹守彪選手を招き、「知的障がい者卓球の歩み ～パリパラリンピックを通じて～」をテーマに講演が行われた。参加者は81名であった。

講義では、パラ卓球に関する内容が取り上げられ、競技の基礎、選手の挑戦、指導方法の3つのテーマで進行的だった。

まず、一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟より、パラ卓球の種類やルール、パラリンピックへの道のりについて説明がなされた。国内大会の概要、強化指定選手の基準、国際大会への派遣、パラリンピックの出場枠について詳しい解説があり、「肢体不自由者」と「知的障がい者」のクラス分けに関する特殊なルールについても紹介された。また、強化指定選手の現状や強化合宿の取り組み、国際大会派遣の状況についての報告もあった。

次に、竹守選手と石川理事長による対談が行われた。竹守選手は自身の歩んできた道のりや目標について語り、大きな病気を乗り越えた経験を共有し、参加者に感動を与えた。石川理事長は、竹守選手の姿勢を「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平性」という4つの観点から称賛した。

最後に、パラ卓球選手の指導方法についての説明がなされた。選手を支える母体コーチとの信頼関係の重要性が強調され、技術指導だけでなく、生活面や精神面でのサポートも必要であることが示された。また、日本代表選手を育成するためには、選手を理解する母体コーチの存在や、安定した練習環境の確保が求められる。さらに、

職場や学校の理解を得ること、そして何よりも選手自身が卓球への情熱を持続けることが重要であると説明された。

本講義を通じて、知的障がい者スポーツの現状やデフリンピックとの違いについての理解が深まった。スポーツ推進委員が地域で指導する際の参考となる多くの示唆が得られ、特に竹守選手の経験や考え方が明確に語られたことは印象的であり、参加者に深い感銘を与えた。



記事 斎藤 利之 情報委員会（東久留米市）
写真 中根 宏行 情報委員会（江戸川区）

委託事業



東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業2回目

令和7年3月20日（木・祝）14時から東京都パラスポーツトレーニングセンター多目的室にてペットボトルモルック体験会が開催されました。参加者は27名でした。

モルックと言えば、アウトドアスポーツとして人気があり、注目を集めている競技ですが、ペットボトルを利用して室内でもできるという体験内容に興味津々で参加してきました。

モルックという投げる棒、モルックによって倒されるピン（スキttl）が全てペットボトルで作られていました。小金井市スポーツ推進委員協議会の方々の画期的なこのアイデアに驚かされたばかりでなく、室内で床・

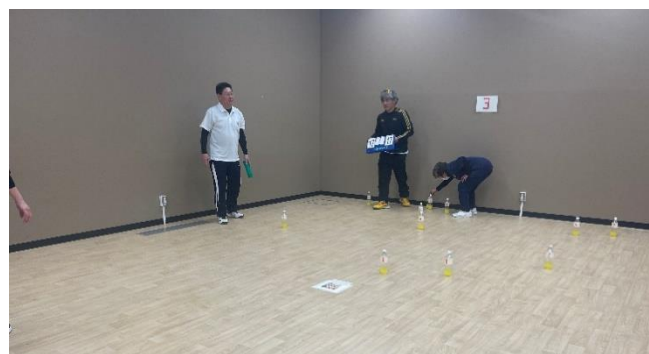
壁を傷つけることなく競技できる点がさらに素晴らしいと思いました。



重さが必要なペットボトルには何が入っているか、お聞きしたところ、シリコンを溶かし入れて固めているとのことでした。ピン（スキットル）のペットボトルには写真の通り番号が振られていて、モルック（投げる棒）もちゃんと円筒に仕上げられていました。

今回、感心しながら体験させていただきましたが、モルックはやっぱりチームでやると盛り上がります。まず2チームで競い、勝ち抜きチームが次のコートに移動します。全部で4つのコートを回るというやり方も白熱する材料になりました。一緒にチームを組ませていただいた荒川区スポーツ推進委員の田中さんと頭と体力を使いながら楽しい時間を過ごせて感謝です。

品川区でもこの室内でペットボトルを使ったモルックができることをぜひ伝えていきたいと思いました。



記事・写真 芝田 珠美 情報委員会（品川区）

※令和6年度の委託事業1回目は、令和6年10月6日（日）同会場にて、「ラダーゲッター体験会」を開催しております。

研 修 会



広域地区別研修会報告

ブロック 担当地区	期日・会場 参加者数	研修テーマ・講師
1B 港区	7月20日（土） 港区スポーツセンター 92名	『一緒に体験をすることで障がいを感じ、他人事ではなく自分事に感じてもらう時間の共有』 ～7つの障がい者サッカーとは～ ・講師：一般社団日本障がい者サッカー連盟 山本 康太 氏 ・実技：ウォーキングフットボール（ボールを変えることや、旗を振るなど、ピッチマネージャーがその場に応じて対応した。）
2B 北区	9月28日（土） 北とびあ つつじホール 123名	『地域の課題に向き合うスポーツのありかた』 講演テーマ『スポーツでの暴力・体罰・ハラスメントをなくすには？』 ・講師：東洋大学 健康スポーツ科学部 学部長 健康スポーツ科学科 教授 齊藤 恭平 氏 ・各地区発表・テーマ『地域課題に向けたスポーツの実践』

3B 目黒区	9月7日(土) めぐろ パーシモンホール 八雲体育館 144名	『共生社会におけるスポーツの推進と普及を目指して』 サブテーマ 「誰もがスポーツを楽しむ続けるために」 ・講師：日本パラバレーボール協会 副会長 竹田 賢仁氏 パラバレーボール(座位)男子日本代表選手 高砂 進氏 ☆分科会① 実技 『パラバレーボール(座位)体験会』 ・講師：日本パラバレーボール協会 副会長 竹田 賢仁氏 パラバレーボール(座位)男子日本代表選手 高砂 進氏 ☆分科会② 座学 『スポーツと安全』 ～スポーツで起こりうる事故の予防と安全管理体制の構築～ ・講師：NPO法人スポーツセーフティージャパン 代表理事 佐保 豊氏
4B 豊島区	9月28日(土) としま産業振興プラザ 「IKE・Biz」 6階多目的ホール 77名	第1部 講演・トークセッション 『学ぶなら今でしょ!「東京2025デフレンピック」 大会を見据えて、現状と今後の取り組み』 ・講師：立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科教授 松尾 哲矢 氏 デフアスリート(400mハードル)：高田 裕士 氏 第2部 グループワーク(実技) 手話エクササイズ(準備運動)を考える。
5B 足立区	9月28日(土) 足立区役所 庁舎ホール 125名	『パラスポーツの普及やデフリンピック開催が地域にもたらすもの』 サブテーマ 「デフリンピック開催に向けた理解とスポーツ推進委員の関わり方」 講演①テーマ：「デフアスリートとして感じること」 ・講師：デフスキー選手冬季デフリンピックメダリスト 田苗 優希 氏 講演②テーマ：「デフリンピックを通じた共生社会の実現に向けて」 ・講師：サインフットボールしながわ代表 植松 隼人 氏
6B 日野市	9月7日(土) 日野市市民の森 ふれあいホール コミュニティルーム 1・2 108名	『学校部活動の地域移行・地域連携について』 第1部 講演 講演①『東京都における学校部活動の地域連携・地域移行の取り組みについて』 ・講師：東京都教育庁指導部指導企画課(部活動振興担当) 指導主事 谷川 圭 氏 講演②『日野市における学校部活動の地域移行・地域連携の取り組みについて』 ・講師：スポーツデータバンク株式会社 社長室室長兼地域担当プロデューサー 長瀬 貴紘 氏 第2部 グループワーク
7B 福生市	8月24日(土) 福生市民会館小ホール 100名	『基礎的運動能力』 サブテーマ 『下肢から考える健康について』 ・講師：帝京大学 医療技術学部 蛭間 栄介 氏 レクリエーションテーマ『座りながら楽しくできる運動』

8B 立川市	11月10日(日) たましん RISURU ホール 第一会議室 59名	『地域スポーツ推進におけるアスリートとの協力体制について』 講義：テーマ『部活動委託など新たな課題に対するスポーツ推進委員の関わり方について考える』 ・講師：一般社団法人アスレティックス・ラボ 代表理事 花谷 昂 氏 グループ討議 ①アスリート団体の協力によって実現可能な新規事業のアイデア ②部活動の地域移行に際し、スポーツ推進委員が担うべき役割や課題 ③幼少期からのスポーツに対する意識づけを促進するためにできる活動案 ④各地域のスポーツ推進委員が展開する特色ある取り組みの共有
9B 小金井市	9月7日(土) 小金井宮地楽器ホール 144名	『地域住民のスポーツニーズに応えるスポーツ推進委員の役割』 サブテーマ 『昨年の研修会のその後とスポーツ推進委員の知名度を向上させるための取り組み(活動)について』 講演：テーマ「スポーツの力とスポーツ推進委員の役割」 ・講師：東京工学院専門学校 池田 智彦 校長 各市事例発表
10B 清瀬市	9月21日(土) 清瀬市民体育館および 下宿地域市民センター 内会議室 64名	『近現代におけるスポーツの現状』 サブテーマ 『地域住民のニーズに応え、楽しみながら体を動かす』 第一部 講演テーマ「新体操を通じての学び」 ・講師：新体操オリンピック 川本 ゆかり 氏 第二部 実技内容「ストレッチ&ダンス体験会」 ・指導：清瀬市スポーツ推進委員会委員 上野 可南子 氏
11B 八丈町・ 青ヶ島村	11月22日(金) ニューピア竹芝 サウスタワー 4階 会議室 20名	育成世代の体幹トレーニング指導について サブテーマ 島しょ地区におけるスポーツ活動の現状と課題 ・講師 木場 克己 氏(プロトレーナー) 各地区活動報告

各地区の情報



情報ひろば

【豊島区】

豊島区スポーツ推進委員協議会では、令和7年3月現在22名のスポーツ推進委員が活動しています。シニア向けの事業はもちろん、行政と共にスポーツ実施率向上に向けた事業を展開しています。これまで続けてきた区民ウォーキング、ハイキング、ポールウォーキング、障がい者施設での運動指導、何といても体育の日に行われる「スポーツまつり」の企画・運営など、それぞれが担当となり協力し合って活動中です。

今年度はBaseball5の2022年アジア杯代表選手、来期にはゴールボール日本代表強化指定選手が推進委員に就任することもあり、ニュースポーツ普及のための内部研修会を開催するなど、資質の向上にも努

めています。これらの事業開催や研修を通じて、スポーツの力で区民の皆さんが健康的な生活を送れるように、活動の場を増やしていきたいと思っています。



【千代田区】

千代田区スポーツ推進委員協議会は、現在 27 名で活動をしています。主な活動として、ソフトボール大会、フィールドアスレチック大会、ニュースポーツ講習会・大会、ファミリーバレーボール大会、ボウリング大会、体力測定会、ドッチビー大会の 7 つの区民スポーツ大会等を主管し、運営や審判を務めています。

また、特徴的なものは、毎年 10 月に開催される千代田区民体育大会です。この体育大会は、千代田区の町会に属する町会員を中心に 8 つの地域に分かれ、地区別対抗で行われる大運動会で、これまでに 60 回以上開催されています。スポーツ推進委員は、当初から審判として大会を支えています。

その他、2013 年の東京国体のデモンストレーション競技として千代田区で行われたドッチビーは、現在でも区立小学校に出向いて指導を行うなど普及活動を続けております。

最近では、ボッチャ体験会を区立幼稚園で行ったり、区主催のparasports・eスポーツ体験会に参加するなど、ニュースポーツやparasportsにも積極的に携わっており、障がい者の方も一緒に参加していただけるような区民スポーツ大会が開催できるよう努めています。



【国分寺市】

国分寺市スポーツ推進委員会は、ウォーキングやニュースポーツの普及、障害者スポーツの参加促進など、多世代の多くの市民がスポーツを楽しめる事業を実施しています。その中から、今回はボッチャとモルックの 2 種類について、本市での広がりを紹介いたします。

ボッチャは、地域の方々からの要望を受け、地域センターでの体験を通じた普及活動が始まりました。「東京 2020 パラリンピック」での日本チームの活躍も後押しとなり、今現在では市内で交流大会が開催されるまで、ボッチャを広めることができました。市町村ボッチャ大会の予選会である「ぶんじボッチャ大会」には、毎回障害者チームも複数参加しており、各チームが交流を深めています。

モルックは、同好会の方や子どもたちが公園などで遊んでおり、子どもまつりにも登場するようになりました。スポーツ推進委員会でも室内用モルックを導入

し、「スポレクまつり」や「スポレクひろば」などのイベントで普及活動を行っています。

これからも、国分寺市スポーツ推進委員会は、多世代の多くの市民とともに、身近で楽しめるスポーツ事業づくりを進めていきます。



【昭島市】

～ スポーツを通じて、健康で元気あふれる

まちづくりを！～

2025 年現在、昭島市では、小学校区域 13 地区から選出された 15 名の「スポーツ推進委員」が、市民の皆さんがスポーツを気軽に楽しめるよう、地域に根ざした活動を行っています。

私たちは、地域のスポーツ振興を支えるボランティアリーダーとして、子どもから高齢者まであらゆる世代がスポーツを楽しめるよう、イベントの企画・運営や指導・普及活動に取り組んでいます。

具体的には、市民ウォーキング大会（歩け歩け運動）や、小学生を対象とした親子ふれあいスポーツでの新

体力測定、ボッチャ・モルックなどのニュースポーツ体験会、そして東京市町村ボッチャ大会へとつながる昭島ボッチャ大会などを企画・運営しています。

また、市が主催する「新春駅伝」「スポーツレクリエーション」「青少年フェスティバル」では、運営サポートをはじめ、一角をお借りして新体力測定を実施したり、来場者が気軽にスポーツを体験できる機会を提供しています。

さらに、昭島市自治会連合会や総合型地域スポーツクラブ「昭島くじらスポーツクラブ」が主催するインドアパタック大会の運営サポートなど、地域のスポーツイベントにも積極的に関わっています。

これからも、スポーツを通じて地域の皆さんとつながり、健康で笑顔あふれる昭島市を目指して、楽しく元気に活動していきます。

また、東京都スポーツ推進委員協議会の研修会などを通じて、他の区市町村の推進委員の皆様と交流を深め、情報を共有しながら、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを楽しめる環境を広げていきたいと考えています。

今後とも、昭島市スポーツ推進委員をよろしくお願いいたします！



【編集後記】

委員長として迎えた初年度、あっという間の一年間でした。昨年を振り返ると、スポーツ界ではさまざまなイベントがありましたが、やはりパリ 2024 オリンピック・パラリンピックが最も印象に残る大会だったのではなかったでしょうか。日本勢の活躍はもちろん、観客動員の復活や声出し応援の解禁により、オリンピック・パラリンピックともに大いに盛り上がりました。

そして、今年は、3月のMLB開幕戦で大谷選手をはじめとする日本人大リーガーの対決に始まり、世界陸上やデフリンピックなど、東京で世界的なスポーツの祭典が次々と開催されます。各地区のスポーツ推進委員の皆さまの中には、競技委員や大会ボランティアとして活躍される方も多くいらっしゃることでしょう。スポーツの力を身近に感じられる、本当に楽しみな一年になりそうですね。

令和7年度は、情報委員会として地域の活動内容を共有するとともに、皆さまにさらに楽しんでいただけるような新たな企画を計画したいと考えています。今後とも、情報共有や企画立案、アイデア提供など、お気軽にご意見をお寄せいただけますと幸いです。引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

さらに、楽しく充実した一年にしていきましょう！

編集 長谷川 恵二 情報委員会（昭島市）

#####